

はじめに

アジア古籍保全講演会は、平成 19 年 11 月に第 3 回を開催することができました。毎回多数の方に、学内にとどまらず様々な大学・諸機関からおいでいただき、われわれも大変力づけられております。

東京大学をはじめとする国立大学は、平成 16 年 4 月の国立大学法人化以来、中期計画に基づいて一期 6 年間で単位に運営することとなっております。東京大学でも、中期計画の中で図書館について、本郷の総合図書館、駒場図書館、柏図書館と各部局の図書館・室が連携して学習用図書・雑誌、研究用図書・雑誌等を整備すること、本学の所蔵する学術的に貴重な物品、図書、資料が良好な保全管理状態に置かれるように努めることが、大学の基本的な目標のひとつとしてはっきりうたわれております。

さらに、現在の小宮山総長の下での、いわば施政方針として「東京大学アクションプラン」が作られ、毎年改定されておりますが、この中でも附置研究所——東洋文化研究所はこのカテゴリーに含まれます——やセンターにおける研究機能の強化、さらにわが国の研究を先導する中核的研究拠点における拠点機能の充実がうたわれております。また、東洋文化研究所をはじめとするいくつかの部局には、非常に重要な、人類の歴史的文化財であるような蔵書・資料があるけれども、その保存状態は必ずしも満足すべきものではなく、整備する必要があるということも述べられています。

この講演会は、そうした東京大学の基本的な方針を実践するためのさまざまな活動の一環として行っているものであります。

今回、アジア古籍保全講演会の内容をより多くの方に知っていただきたいと考え、第 1 回から第 3 回までの内容を 1 冊にとりまとめた記録集を作成いたしました。学内諸部局や学外諸機関における資料保全対策への一助となれば幸いです。

平成 20 年 3 月

東京大学東洋文化研究所長

関 本 照 夫